



さんちだより

荒川区立第三日暮里小学校
発行日 令和6年4月30日
発行者 校長 村山 貞則

5月号

学校目標
考える子
たくましい子
思いやりのある子

「たくましい子」を育てる

校長 村山 貞則

校庭の木々の緑もより鮮やかになってきました。新年度が始まってから1か月がたちました。それぞれの目標に向かって頑張っている子どもたちの様子を見てると嬉しくなります。この季節、鯉のぼりが五月晴れの青い空に泳ぐ様子が見られます。鯉のぼりには、生きる力が強く更には縁起の良い鯉になぞられて、「たくましく」元気に育ててほしいという、子どもの成長を願う気持ちが込められているそうです。子どもたちのより良い成長を支える私たち教職員の気持ちも高まります。

学校の教育目標のひとつに「たくましい子」があります。「たくましい」は、丈夫で強いことを表しますが、肉体面にも精神面にも使うことができます。「たくましい子」を育てていくために、

- ①運動をすることを楽しみ、健康に過ごすための知識や行動力を身に付けることで、元気にはつらつと生活を送れるようにしていくこと
- ②困難にもくじけず、そしてあきらめずに取り組めるようにしていくこと
- ③いろいろなことに積極的に挑戦できるようにしていくこと

を大切にしていきます。

子どもたちが運動をすることを楽しめるように、自分のしてきた実践や書籍を読んで得た知識をプリントで配布するなどして良い実践を広めてくれたり、外部講師の先生や校内の先生による授業参観を通してより良い授業を目指して取り組んだりするなど、教員全体で切磋琢磨しながら進めています。また、健康に過ごすための知識や行動力が身に付くように、親子学習会なども含めて様々な機会を啓発していきます。

さらに、くじけない心、あきらめない心、挑戦する気力をもつためには「自己肯定感（自分自身に満足している・自分に自信がある・自分には価値があると思える・自分は誰かに必要とされていると思える）」を高めていくことが重要であると考え、以下を大切にしていきます。

○子どもとしっかりと向き合ったコミュニケーション（話を聞く・意見を尊重する・失敗してしまった時も過程を褒める・他人と比べない）

○達成感を味わう経験

○子どもが自分で考え、行ったことの価値

変化が激しく、多様で複雑な社会を「たくましく」乗り越えていく力を育ていけるように支援してまいります。

読書のすすめ



本校では、学校図書館を活用した教育課程の編成について研究を進め、子どもたちが本に親しみ活用しながら、探究活動等を進められるように取り組んでいます。また、校内の掲示や展示を工夫したり、読み聞かせの機会を大切にしたり、「三日 TRY！読書」等の様々な活動を取り入れながら、子どもたちが新たな本に出会うきっかけづくりを行っています。そして、このような環境づくりのために、学校図書館司書の先生や図書ボランティアの皆様、区の支えがあり、感謝しています。

今月は読書月間があり、教員による読み聞かせを実施します。楽しみながら、いろいろな本の魅力を紹介していきたいと思えます。

ご家庭におかれましても、「家読（家族ふれあい読書）」を楽しみながら行っていただけたら幸いです。